

教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会
学校教育部教育指導課
平成24年4月20日発行

VOL. 1

ご挨拶

函館市教育委員会学校教育部教育指導課長
永井 貴之

平成24年度のスタートに当たり、ご挨拶を申し上げます。

私が教育指導課に来てからの3年間を振り返ると、学力向上や生徒指導、特別支援教育、そして昨年特に注目を浴びた防災教育など、今日的な教育課題を各学校が的確に把握し、実態に応じて限りを尽くしていただいていると実感しております。

一方、生徒指導上の問題や対応に苦慮する事案など、学校に足を運びながら共に考え解決に向けた支援に努めてまいりましたが、振り返ると「はじめの一步」の対応や小さな不安の積み重ねなどが要因として考えられるケースがありました。

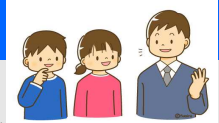
子どもを大切に、保護者の思いに寄り添う「温かな対応」を積み重ねることが問題の未然防止につながりますし、教育課題の解決、教育活動の充実につながることを改めて確かめ合いたいと思うところです。

今年度も子どもを中核においた学校への支援に努めるとともに、表題の下にあります通り、教育指導課と学校が「つながり合い、共に学びをはぐくむ」一年間にしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～STAFF紹介～

小濱 誠 指導主事	主に学校訪問、教育課程全般について担当します。
小笠原 学 指導主事	主に学力向上にかかわる取組を担当します。
田中 登 指導主事	主に高等学校、生徒指導、外国語教育を担当します。
小棚木こずえ指導主事	主に特別支援教育、健康・安全教育を担当します。

コラム：教育課程（①）



○ 教育課程とは「『学校の教育の目的や目標を達成するために』教育の内容を『児童（生徒）の心身の発達に応じ』授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」※1を意味します。

簡単に言うと、「こういう教育をしますよ」という学校のマニフェストであり、学校という船の乗組員である教職員から見ると、「こちらの方向にこういう航海の方法（取組）で、このくらいの時間・速度（時数）を使って目的地に向かって進みましょうという航海図や羅針盤、運行計画にあたると言えます。

海を進むには様々なルールがあるように、教育を進めるのには多くの法令がありますので、それを守ることが、安全・確実に子どもたちを幸せに目的地へ運ぶこととなります。一方で船にもいろいろあるように、学校の置かれている地域性（環境や生活条件など）、実態（規模や子どもの実態、職員構成、施設・設備）児童生徒の発達の段階や個性などに留意してそれぞれの学校独自の『課題解決』に向かっていくことも求められていますことから、法の求める内容をクリアしつつ、「うちの学校はこういうねらいで、このような特色の教育課程を編成しています。」と一言で言い表せることが大切です。

※1（小学校学習指導要領解説総則編）